

令和6年度 向栗崎小学校評価計画書

(本校の実態に応じた学校評価書)

①よくあてはまる
②あてはまる
③あまりあてはまらない
④まったくあてはまらない

重点目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価	①	○成果 ◆課題 ・改善策
学力の向上	自ら考え、学び合う児童の育成	児童が課題を決めたり学び方を選んだりして、見直しをもって問題解決を行う姿が求められる。	子供主体の授業を目指し、「向栗崎小授業スタイル」に基づいた授業を実施している。〔努力目標〕	教職員アンケート【設問5】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が75%以上 C: ①+②が60%以上 D: ①+②が60%未満	学習B 86.7%	20.0%	○「向小授業スタイル」を子供主体とするよう、「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現」という学びのプロセスにすることで、子供主体の授業づくりへの意識を高めることができた。児童も「授業は分かりやすい」という実感を得ることができた。 ○問題解決のための自己決定の場の工夫について学年会で話し合う場を設け、手立てを講じたり、有効であったかを振り返ったりすることができた。 ○児童が考えをもつ場面や友達と交流する場面ICTの活用を積極的に進め、1人1台端末で考えを共有したり、相互参照したりすることができた。
			問題解決のための自己決定の場の工夫をしている。〔努力目標〕	教職員アンケート【設問8】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が80%以上 C: ①+②が70%以上 D: ①+②が70%未満	学習A 93.3%	20.0%	
			学びや変容を自覚するための工夫をしている。〔努力目標〕	教職員アンケート【設問9】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が80%以上 C: ①+②が70%以上 D: ①+②が70%未満	学習B 80.0%	0%	
			授業を通して、できることが増えたり、考えがより深くなった。〔努力目標〕	児童生徒アンケート【設問4】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が75%以上 C: ①+②が60%以上 D: ①+②が60%未満	学習A 92.6%	61.7%	
授業力の向上(町)	課題に対し、粘り強く取り組もうとはしているが、問題解決の見通しをもち、根拠や理由を示すなど、より効果的な表現方法を工夫するまでには至っていない。	児童・生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業をしている。	教職員アンケート【設問4】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が75%以上 C: ①+②が60%以上 D: ①+②が60%未満	学習A 100%	6.7%	◆児童が自己決定をした後に、教師がそれぞれのような学び方をしているかしっかりと見取り、価値付けのことについては課題が見られる。 ◆学習用語を用いて適切に表現することには個人差が見られる。再思考の場や習熟を図る時間の確保が十分ではなく、児童が「わかったつもり」になっていることが少なくない。 ◆家庭学習が定着していない児童が固定化している。ゲームや動画視聴の時間が長い児童も多い。 ・それぞれの児童の学び方を見取り、問題解決につながるような指導を工夫し、よい姿を価値付けていく。 ・学習用語の定着を図るとともに、言語活動や適用問題を行う時間を確保し、児童の「わかったつもり」を確かな「わかった」に変えていく。 ・生活プランニング週間やメディアコントロール週間等の取組を通して、メディアに触れる時間を制限したり、家庭学習をする時間を確保したりするなど、家庭と連携していく。	
		学校は、分かりやすい授業づくりや学力向上に努めている。	保護者アンケート【設問2】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が75%以上 C: ①+②が60%以上 D: ①+②が60%未満	学習A 97.6%	30.9%		
		授業は分かりやすい。	児童生徒アンケート【設問5】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が75%以上 C: ①+②が60%以上 D: ①+②が60%未満	学習A 90.2%	61.1%		
家庭学習の定着(町)	家庭での学習習慣が身に付いていない児童がいる。	家庭学習の習慣が身につくように指導している。	教職員アンケート【設問1】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が80%以上 C: ①+②が70%以上 D: ①+②が70%未満	学習A 100%	26.7%	◆心身のアンケートの中で、友達の良いところを親子で考え、書くという活動を継続的に行ってきたことで浸透してきていると考える。今後も継続していく。 ○いいところビンゴの取組により、友達のことを認め、友達から認められているという実感をもてるようになってきたと考える。特に友達から認められている数値は昨年度後期から約15%上昇している。 ◆心のアンケートのA評価がやや低めである。 ◆いいところビンゴはクラス内のみでの取組だったので、学年や異学年に広げることができなかった。 ・心のアンケート実施前に、クラスで家の人と一緒に行うことを再度指導する。 ・2学期は学年でのいいところビンゴを行い、まずは学年間で認め合える関係を築けるよう取組を広げていく。	
		我が子は、家庭学習の習慣が定着している。	保護者アンケート【設問9】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が75%以上 C: ①+②が60%以上 D: ①+②が60%未満	学習B 78.8%	21.2%		
		家庭学習の習慣が身についている。	児童生徒アンケート【設問6】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が75%以上 C: ①+②が60%以上 D: ①+②が60%未満	学習A 90.1%	58.3%		
ICTの活用の推進(町)	ICTを効果的に活用した授業が少ない。	1人1台端末を積極的・効果的に活用するよう工夫している。	教職員アンケート【設問10】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が80%以上 C: ①+②が70%以上 D: ①+②が70%未満	学習A 93.4%	26.7%	○心のアンケートの中で、友達の良いところを親子で考え、書くという活動を継続的に行ってきたことで浸透してきていると考える。今後も継続していく。 ○いいところビンゴの取組により、友達のことを認め、友達から認められているという実感をもてるようになってきたと考える。特に友達から認められている数値は昨年度後期から約15%上昇している。 ◆心のアンケートのA評価がやや低めである。 ◆いいところビンゴはクラス内のみでの取組だったので、学年や異学年に広げることができなかった。 ・心のアンケート実施前に、クラスで家の人と一緒に行うことを再度指導する。 ・2学期は学年でのいいところビンゴを行い、まずは学年間で認め合える関係を築けるよう取組を広げていく。	
		授業中に1人1台端末を進んで使っている。	児童生徒アンケート【設問7】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が75%以上 C: ①+②が60%以上 D: ①+②が60%未満	学習B 89.8%	60.7%		
豊かな心の育成	自分も友達も大切にす学級づくり	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気があるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	児童が互いを認め合える具体的な取組をしている。〔努力目標〕	教職員アンケート	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が80%以上 C: ①+②が70%以上 D: ①+②が70%未満	生徒指導A 92.9%	42.9%	○1学期を通してあいさつの目標を設定したことで、あいさつをする意識は付いてきたと考える。 ◆あいさつをするという意識は付いてきているが、自ら進んであいさつ(先あいさつ)をする意識については不十分である。 ◆見守り隊の方など、校外でのあいさつの意識が見られる。 ・2学期には「自分から「先あいさつ」をしよう」という生活目標を設定し、自ら進んであいさつすることが全体に浸透するようにしていく。 ・校内でのあいさつをする意識が付いてきたことは認め、2学期以降は校外でも進んで挨拶することを全体に指導していく。
			「心のアンケート」をもとに、子どもと自分や友達のよさや頑張りについて話し合う時間をもった。〔成果指標〕	保護者アンケート【設問11】	A: ①+②が80%以上 B: ①+②が65%以上 C: ①+②が50%以上 D: ①+②が50%未満	生徒指導A 88.3%	17.0%	
			友達のよいところや頑張りをもっている。〔成果指標〕	児童生徒アンケート【設問8】	A: ①+②が80%以上 B: ①+②が65%以上 C: ①+②が50%以上 D: ①+②が50%未満	生徒指導A 94.2%	67.3%	
			友達から認められている。〔成果指標〕	児童生徒アンケート【設問9】	A: ①+②が80%以上 B: ①+②が65%以上 C: ①+②が50%以上 D: ①+②が50%未満	生徒指導A 91.0%	57.4%	
場をとらえた「あいさつ」指導の実施	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはまだまだできない児童も多い。	友達や先生、地域の方へあいさつが定着するように指導した。〔努力目標〕	教職員アンケート	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が80%以上 C: ①+②が70%以上 D: ①+②が70%未満	生徒指導・特別活動A 92.9%	35.7%	○1学期を通してあいさつの目標を設定したことで、あいさつをする意識は付いてきたと考える。 ◆あいさつをするという意識は付いてきているが、自ら進んであいさつ(先あいさつ)をする意識については不十分である。 ◆見守り隊の方など、校外でのあいさつの意識が見られる。 ・2学期には「自分から「先あいさつ」をしよう」という生活目標を設定し、自ら進んであいさつすることが全体に浸透するようにしていく。 ・校内でのあいさつをする意識が付いてきたことは認め、2学期以降は校外でも進んで挨拶することを全体に指導していく。	
		子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている。〔成果指標〕	保護者アンケート【設問10】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が80%以上 C: ①+②が70%以上 D: ①+②が70%未満	特別活動B 83.4%	18.9%		
		先生、友達、地域の方へ自分から進んであいさつができる。〔成果指標〕	児童生徒アンケート【設問10】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が80%以上 C: ①+②が70%以上 D: ①+②が70%未満	生徒指導・特別活動A 95.9%	71.2%		
児童が主体となる学級会の実施	学級活動において、学級生活の中から課題を見出し解決するための方法や内容をみんなで話し合ったり、協力で実践したりする経験が少ない。	学級会に進んで参加できている。〔成果指標〕	児童生徒アンケート【設問11】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が80%以上 C: ①+②が70%以上 D: ①+②が70%未満	特別活動B 88.5%	58.2%	○児童の主体性のために、議題の工夫、ネームプレートを使用した全員参加のための工夫等を行った。 ◆学年・学級の実態に応じた「学級会に進んで参加する姿」を児童と共有することが必要である。 ・学級会の終末に、フォームや口頭で進んで参加できたかどうか児童が振り返る場を設定する。	
		学級会において児童の主体性をより伸ばす手立てを講じた。〔努力目標〕	教職員アンケート【設問20】	A: ①+②が90%以上 B: ①+②が80%以上 C: ①+②が70%以上 D: ①+②が70%未満	特別活動A 91.7%	16.7%		

	道徳教育の推進 (町)	授業参観での授業公開や学習履歴の掲示、お便りの発行等を行っている。	道徳の授業を中心に豊かな心や感性を育むよう指導している。	教職員アンケート【設問6】	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	学習A 100%	30.8%	○日々の授業を中心に指導していることが、授業参観での授業公開などを行うことで保護者にも伝わっている。 ・2学期以降も家庭に向けて発信できるように授業公開やお便りの発行を行っている。
			学校は、道徳の授業を中心に豊かな心や感性を育むよう指導している。	保護者アンケート【設問5】	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	学習A 97.4%	26.3%	
生徒指導の充実	教育相談体制の充実 (町)	いじめや不登校等の問題に対して配慮が必要な児童が数名おり、個に応じた指導の必要性が高まっている。	いじめや不登校等の問題に対して組織的に取り組んでいる。(学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況)	教職員アンケート【設問13】	A:①+②が95%以上 B:①+②が90%以上 C:①+②が85%以上 D:①+②が85%未満	生徒指導A 100%	53.3%	○問題行動等何かあった際は管理職や生徒指導部に報告し、組織的に対応できている。 ◆保護者アンケートに関しては、昨年度と比較してやや低下している。 ・問題行動等あった際は、学校として組織的に対応しているが、2学期以降は保護者への連絡も内容に応じてはあがある、積極的に進んでいく必要がある。
			学校は、いじめや不登校等の問題の解決に向けて積極的に取り組んでいる。	保護者アンケート【設問7】	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	生徒指導A 92.4%	22.6%	
			学校に行くのが楽しい。	児童生徒アンケート【設問1】	A:①+②が95%以上 B:①+②が85%以上 C:①+②が75%以上 D:①+②が75%未満	生徒指導B 94.3%	60.4%	
健康と安全・安心で健やかな教育の充実	「早寝・早起き・朝ごはん」の育成を通じた基本的な生活習慣の確立	家庭への理解を図りながら、早寝、早起きの基本的な生活習慣の定着により、目標の時刻までに寝ることができている児童を、より一層増やしていく必要がある。	児童が健康(生活プランニング)に気をつけて生活するための指導をした。【努力指標】	教職員アンケート【設問19】	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	保健安全A 100%	40.0%	○前回調査よりも数値の改善がみられる。継続的な声掛けに加えて、睡眠講話などで定期的に啓発する機会があったことが良かった。 ◆まだまだ時刻を守れない児童も多い。 ・継続的に声掛けやメディアコントロールチャレンジを行うなどの指導をしていく。
			子どもは学年の目標の時間に寝ている。【成果指標】	保護者アンケート【設問12】	A:①+②が95%以上 B:①+②が85%以上 C:①+②が75%以上 D:①+②が75%未満	保健安全D 74.6%	30.2%	
			学年の目標の時間に寝ている。【成果指標】	児童アンケート【設問13】	A:①+②が95%以上 B:①+②が85%以上 C:①+②が75%以上 D:①+②が75%未満	保健安全C 79.0%	40.7%	
	危機管理意識を高くもって、安全な学習環境の整備や日常の安全指導を行っている。	教職員アンケート【設問18】	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	保健安全A 100%	50.0%			
安全指導の充実 (町)	けがによる保健室への来室児童が増加している。		学校は、安全な学習環境の整備や不審者対策などに危機意識をもった取組をしている。	保護者アンケート【設問6】	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が60%未満	保健安全A 95.0%	33.3%	
			危険管理意識を高くもって、安全な学習環境の整備や日常の安全指導を行っている。	教職員アンケート【設問18】	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	保健安全A 100%	50.0%	
連携・協働	地域人材の活用、地域交流の活性化による教育活動の充実と地域貢献	開かれた教育課程の実現のために、より一層地域人材の活用・地域交流を活発に行っていくとともに、学校の取組や児童の様子を積極的に発信していく必要がある。	地域人材を活用した授業を行った。【成果指標】 ①:3回以上 ②:2回 ③:1回 ④:0回	教職員アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が70%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	教務D 33.3%	0.0%	○人材活用計画をデータ化したため、来年度に向けて見直しが行われるようになった。 ◆1学期は活用回数が少ないため、2学期以降の教育課程を確認し、学年ごとに活用計画を立てる。
開かれた学校づくり	学校情報の開示 (町)		各種便利や学校HP等で、学校や子どもたちの様子を保護者や地域へ分かりやすく伝えるよう努めている。	教職員アンケート【設問23】	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	教頭B 86.7%	20.0%	○各学年や担当者が積極的にHPを更新する習慣が定着してきた。カードによるHP更新のシステムも意識付けに有効だった。 ◆HPの写真に、個人情報保護の観点から、モザイク等の修正が入ることで、写真の魅力が下がってしまう。また、修正のための手間がかかる。 ・撮影の段階で、できるだけ配慮する。
			学校は、各種便利や学校HP等で、学校や子どもたちの様子を保護者や地域へ分かりやすく伝えている。	保護者アンケート【設問8】	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	教頭A 94.6%	23.8%	
働き方改革	町教職員働き方改革方針の目標達成 (町)	月によっては超過勤務時間が80時間を越える職員もいる。	ノー残業デーには、特別な場合を除き、6時を目前に業務を終了した。【成果指標】 ①毎週 ②月2回程度 ③月1回程度 ④できなかった	勤務時間記録	A:①+②が80%以上 B:①+②が70%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	教頭C 63.2%	44.1%	○80時間を超えたのは4月のみで、その他の月では1人も80時間を超えていない。極端に時間外が多い職員は少なくなってきた。また、ノー残業デーでなくても、6時までに業務を終了する職員が増えた。 ◆時間外が多い職員が固定化されている。生活スタイルや業務の内容にもよるので一概には言えないが、ノー残業デーであっても業務が終わらないことも事実である。 ・ノー残業デーにこだわらず、各自で業務を精選しながら軽重を付けて取り組むことを意識し、トータルで超過勤務時間を減らしていきたい。
			時間外勤務は、1ヶ月45時間以下である。	勤務時間記録	A:①が80%以上 B:①が65%以上 C:①が50%以上 D:①が50%未満	教頭C 62.5%	62.5%	
			時間外勤務は、最も多い月で上限80時間である。	勤務時間記録	A:①が80%以上 B:①が65%以上 C:①が50%以上 D:①が50%未満	教頭A 90.0%	90.00%	
学校評議員による意見			<p>・クロムブックを使っている様子をよく見ることができた。担任の先生が丁寧に指導し、できるようになっていると感じた。別の教室では、みんなが画面を開いているのに開いていない子がいた。分かっていて開かないのならよいが、分からない子が手持ち無沙汰にならないように注意しながら指導にあたって欲しい。調べたいことがすぐに調べられるという点ですごくよい。家に持ち帰って調べ学習などができればすごくよい。もっと安価になればよいと思う。</p> <p>・90%の子が、授業が分かりやすいと答えているが、残りの数%の子がぼれ落ちないように救ってあげて欲しい。</p> <p>・登校時にあいさつしてくれる子がたくさんいる。地域からも積極的にいざいざ声をかけていくことで、つながりをもっていく。新型コロナによって、人と接することが少なくなり、地域とのつながりもなくなってきていると感じる。いろいろな方法や取組で、つながってほしいと思う。</p> <p>・登校しづらいの子が多いと感じている。あまり無理を言うこともできないが、多様性を認め、より効果的な取組があればと思う。学校に行くのが楽しいと答えた子は90%以上いるが、残りの数%の子については、注意してみたい。</p> <p>・地域の人や防犯ボランティアにスマホを使って連絡を受け取る仕組みを広めているが、災害時のツールとしても役立つので、安全の意識をもつのに有効である。情報という視点で安全について考えることもよい。交通安全については、登下校時に危ないと感じる場面をよく見る。学校にも何度が伝えていくが、安全のことなので、引き続き注意して欲しい。</p> <p>・地域から学校に対して、いろいろな要望をあげているが、学校からも地域へもっと要望してもらってもいい。地域が手伝えることをできたらいいと思う。</p> <p>・残業せずに帰って欲しい。先生が疲れていると、それを子どもたちも感じている。先生が、明るく元気に子どもたちに接すると子どもたちも安心するので、働き方の意識を変えていくことはとても大事。</p>					